

第14回通常総会のご報告・・・・(事務局)

平成30年5月20日(日)9時から第14回通常 総会を牛久自然観察の森ネイチャーセンターで開催 いたしました。

議案書に記載していました全ての審議事項は、全 て承認されましたのでご報告いたします。



里山保全ボランティア活動

9、10、11月の参加者募集

牛久自然観察の森に隣接する牛久市結束町の「み どりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアッ プ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈り や除間伐、風倒木の処理等を行っています。

4~7月は計5回、のべ37名の方々と一緒に活動を 行いました。 7月には活動地内でママコナという希少 植物の開花が見られました。作業を続けることで得ら れた成果だと、メンバーとともに喜びを共有いたしました。 活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様の ご参加お待ちしています。残暑がまだまだ続きそうで すが、熱中症に気をつけながら雑木林の下で一緒に 汗を流しましょう。

集合場所 牛久自然観察の森ネイチャーセンター1階倉庫前 予 約 不要/荒天時は中止

持 ち 物 長靴 軍手 長袖 長ズボン

※刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ

活動日時

9月11日(火)9:00~11:00 23日(日)9:00~11:00 10月16日(火)9:00~11:00 28日(日)9:00~11:00 11月13日(火)9:00~11:00 25日(日)9:00~11:00



活動地で開花が見られたママコナ

外来植物リサーチ

牛久の外来植物 6. タカサゴユリ

戸塚 昌宏

タカサゴユリは台湾原産のユリ科ユリ属る特徴がある。 の多年草で、19世紀の末にイギリスに導 花全体が白い琉球自生のテッポウユリ 入されて以来、観賞用に各国で栽培さ れている。 我が国には大正 13年 (1924) に導入され、庭園や切り花用に している場合もある。 栽培されてきたが、種子の発芽から6カ どんどん大きくなって繁茂するかと思え 月ほどの短期間で開花するユリ類では珍ば、たくさんの花を咲かせた次の年に しい特性があるため、近年各地で野生化は、、ぱったりと見えなくなってしまう。ユ して高速道路法面や堤防法面などで繁殖
リの仲間はウイルスによって障害を受け している。牛久市でも土手や道端の草地やすく、長期間同じ場所に生育しにくい で見られるが、花がきれいなため除草さ ことが知られている。同じ場所に長居し れないで残されるようである。

地下の黄色味を帯びた百合根状の鱗茎 かと思われる。いわゆる嫌地現象、あ から 1.5mほどに達する直立茎を出し、 幅約 1cm、長さ 15cmほどの線形の葉を ため、ある程度の年月が経過すると新 やや密につける。夏から秋にかけて茎のたな場所へと旅立つものと考えられる。 頂部に長さ15cm、直径13cmほどの写 我が家でも数年前から家の外壁に沿っ 真のようなラッパ状の6弁の花を総状に て3本ほどタカサゴユリが見られたが、 数個~10個ほどつける。種子からの個 今年はまだ茎も伸びて来ません。新た 体はふつう1花である。花の内部は乳白 な場所へ旅立ったのかも。 色、外側の中肋に沿って紫褐色を帯び

との雑種をシンテッポウユリと称し、これ も野生化しており、タカサゴユリと同じに

たため病原菌などが増加したのではない るいは連作障害である。病原菌などの

タカサゴユリの群生 城中町 平成18年8月20日 渡辺

左上:果実 牛久町 平成25年11月3日 右下: 花 刈谷町2丁目 平成20年8月27日 内野 徹

樹木リサーチプロジェクトでは牛久市(都市計画課)との協働事業の成果を<広報うしく>紙上で紹介することと併せ、毎年研修会を開催しています。今年度は『渡良瀬遊水地の自然、歴史、遊水地の機能を知り、生息する植物を観察する』をテーマに、7月14日(土)、牛久市のバスの提供を受け、現地で研修を行いました。プロジェクトメンバー14人と市民11人の合計25人が参加しました。以下に概要を報告します。

渡良瀬遊水地とは(人工遊水地の歴史と機能)

渡良瀬遊水地は栃木県・茨城県・埼玉県・群馬県の4県にまたがり、面積が33kmと日本最大級の遊水地で、渡良瀬川・巴波川・思川の3河川が流れ込み、約4km下流で利根川に合流しています。

1910~1922年に、治水のためと足尾銅山鉱毒対策のため、下流にあった谷中村の水田地帯を堤防で囲み、遊水地を建設。その後度々拡張工事が続けられ、1990年には谷中湖が運用を開始しました。現在は3つの調整池が洪水対策(治水)を担い、常時水を貯めた谷中湖が渇水対策(利水)を担っています。

渡良瀬遊水地の植物(自然)

遊水地面積の約50%がヨシ・オギが群生する湿地 で、沢山の貴重な動植物が生息していることから、渡 良瀬遊水地が今回の研修の対象になりました。

当日は猛暑でしたが、現地ガイドさんの案内で谷中村跡地を中心に植物の観察が行われ、ヤブジラミ、ノウルシ、ワタラセツリフネソウ等沢山観察できました。また本遊水地は植物だけでも約1000種類発見され



ていて、そのうち 60 種類が国指定の絶滅危惧植物 とのこと。 今回はアゼオトギリソウ (絶滅危惧 IB 類) などが観察できました。

一方で最近はセイタカアワダチソウ、ハリエンジュなどの外来植物の侵入もあり、人手による除去作業が行われているとのことです。



猛暑の中、熱心にガイドさんの説明を聞く参加者の皆さん (平成30年7月14日 内野)

遊水地の豊かな植物環境保護

- ・ヨシ焼き(植生遷移の抑制): 毎年3月下旬にヨシ焼(野焼き)が行われ、マルバヤナギなどによる樹林化を防止。また地面に光が当たると春先にノウルシやマイヅルテンナンショウなどの多くの植物が芽生えてくるとのことです。
- ・土壌の攪乱:土木工事などにより土がかき回されると(攪乱)、数10年前のミズアオイ等の種が眠りから目を覚まし芽生えてくることがあるとのこと。

また試験的にも土壌を攪乱し、芽生えの様子を観察しているとのことです。

・牛久自然観察の森の場合も:下草刈りや枝打ち等で明るくなった場所にキンラン、ギンラン、カリガネソウなど牛久市の絶滅危惧種が芽生えることを体験し、確認しています。

感想

渡良瀬遊水地が動植物と人とが深い係わりを持って 存続していることを学びました。 研修の幹事と現地ガイドの皆様にお礼申し上げます。

牛久自然観察の森指定管理者

「奥野さくらふれあい保育園への出前講座実施」

金久 由美

牛久市社会福祉協議会奥野さくらふれあい保育園 への出前講座に対応させていただいて、今年で6年 目となりました。

園が奥野小学校敷地内に新設された平成25年から申請をいただき、春夏秋冬の年4回。子ども達と1時間の自然観察を継続して来ました。

初年度から対応させていただいた子ども達が、平成28年に卒園を迎え、3年間通して子ども達とふれあい、成長を見せてもらう事ができて感慨深いものがありました。

園では、園の立地を活かして0歳児から散歩が日々の保育の中に取り入れられており、年齢が上がるごとに歩く距離も延び、生き物と触れ合う活動を豊富に行っています。初年度にお受けした時は、自然に親しんで来ていない先生方に子ども達と一緒に季節の動植物を伝えてほしいとの事で対応しました。

都会で育った先生や北海道出身の先生もいらっしゃり、泡の中に住むアワフキムシの姿に子ども達と一緒に感動したり、カラスウリの花を観察したり、サンショウの実、葉の香りや味を体験したり、五感を使って牛久の自然を体感しました。毎年の季節巡りで年長組になると「これは〇〇だよ」と名前が出る程、自然に親しみ詳しくなっています。

自然体験の積み重ねから

年長組では身についた知識を周りに知らせたいという気持ちが強くなり、散歩で見つけた卵から飼育したチョウの羽化を見て、命の尊さを実感したり、また自分たちが自然観察で体験してきた発見や驚きを小さいクラスの子どもや親にも知らせたいと、子どもならではの発想や見方で、動植物の特徴をとらえたクイズを見開きの紙に絵と文章で作成し、園内に発表した活動を行っていることを教えていただきました。

これからも子ども達が、郷土の自然に興味関心が深まるように、事前の現場下見と安全確認になお力を入れて出前講座を充実させていきたいと思います。

自然観察出前講座

「ヘイケボタル鑑賞会」

蓮尾 亮

7月に入り蒸し暑さが一気に増しました、そのため 昆虫たちの動きも活発になったように思います。 牛久 市内で蒸し暑い夜に飛び始めるのはヘイケボタルで す。

6月に飛ぶゲンジボタルと違い、彼らは川の流れが 無い、もしくはゆるやかな水辺に生息しています。そ こでタニシなどの貝や死んだ昆虫などを食べて生活し ています。谷津田が彼らの住む代表的な場所になり ます。

向台小学校の裏には、貯水池がありその周辺が谷津田となっています。毎年向台小学校の5年生が5月の中旬にその谷津田で田植えを行い、今年も5月11日(金)に長年携わっている出前講座メンバーの指導のもと無事に終えました。

毎年ホタルが発生する時期には、向台小敷地内にある牛久ふれあい保育園のこども達とその保護者の方達にホタルの生息場所をご案内しています。 今年は7月11日 (水) に開催し、こども約20名とその保護者約20名が参加しました。

午後7時30分に牛久ふれあい保育園に集合し、10分ほど石神先生からの谷津田の成り立ちやホタルの生態等のお話、また注意事項などをお話していただきました。その後10分ほど歩いて現地に到着、そこでは約30匹前後のヘイケボタルが観賞できました。毎年と比べると多く、暑さのせいか発生時期が早いように思います。10分ほど観賞して午後8時30分までには戻ってきました。

初めてみた子ども達は「きれい」や「地面にお星様がいっぱい」などたくさんの声が聞こえました、保護者の方も初めて見た方が多くとても感動されているようでした。

牛久市内でも大変希少となった「ヘイケボタル」の 観賞会を毎年行い、ホタルを通して子ども達に牛久内 に残っている自然の豊かさを少しでも感じてもらえれば 嬉しく思います。



鑑賞前にホタルの生態を紹介

身近な生きもの夏のフォトアルバム



コナラのドングリ この時期はまだ緑色をしていて、秋にかけて大きくなっていきます。



仲良く並んだアブラゼミの抜け殻 殻が並ぶと仲良しに見えるから不 思議です。



ホシテントウ

少しいるようです。

植物を食べるテントウムシの種類も

コガネグモ?と巣

網目模様の巣が特徴的でした。

クヌギの樹皮に擬態するキノカワガ 色味がやや白く目立っていました。



クロオオアリを運ぶクロヤマアリ 自分よりも大きくて重い生きものを運ぶ姿は、 とてもたくましく感じます。



藪で見つけたオオカマキリ 羽を休めるため訪れるチョウを待っているのでしょうか?



色付いたケヤキの葉 虫に葉身の一部を食べられ色付いたようで地面で 一際目につきました。



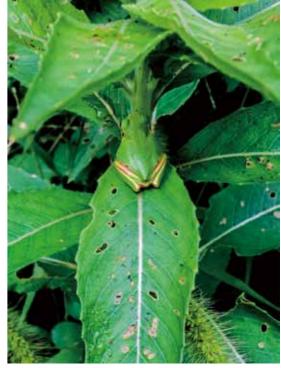
ミカドトックリバチの巣 どの巣も見事な「とっくり」の形をしていました。



羽を休めるシオカラトンボ 花の終えたシロツメクサのボンボンにとまっていました。



樹液に集まるカブトムシとカナブン カブトムシは大きく、いつ見ても存在感があります。



葉に擬態するニホンアマガエル 結束町の田んぽでオタマジャクシからカエルに? 7月の観察の森では、林床で頻繁に見られるようになります。



開花するママコナ 今年は、ママコナの群落でたくさんの花が見られま した。